



県政を経営する

先日テレビで興味深いことを報道していました。昨年、早期・希望退職を募集した上場企業は84社でしたが、そのうち、募集人数が1000人以上の大企業5社のうち4社は直近の通期決算が黒字だったというのです。一般的には慢性的な赤字を解消するための手段として用いられる早期・希望退職ですが、こうした企業はこれからの人口減少時代を見据え、会社に体力がある段階で納得してもらえる退職金を支払い、個人の能力を次の職場で生かしてもらいたいという考えのもと制度化していました。番組ではこれに手を挙げ、次の職場で張り切って仕事をなさっている元社員の様子が映し出されておりました。また、これによって浮いた人件費を使い、若い社員の処遇を改善するという効果も紹介されていました。会社が黒字であるときに次の時代を見据えて会社も社員もウィンウィン(win-win)になる手を打つという姿勢に学ぶべきことがあります。私が通った松下政経塾は経営の神様と言われた松下幸之助翁が創設した公益財団法人です。松下政経塾は「政治と経済を学ぶ」ところではなく「政治を経営することを学ぶ」ところだと幸之助翁はおっしゃっていました。宮城県は、東日本大震災などの災害に見舞われながらも、県民の借金を減らしながらいろいろな施策にチャレンジしています。急激な人口減少時代を見据え、県政を経営する気概を持ち続け発展の礎をつくりたいと強く願っています。

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】1 暖房システムを操作している様子 2 トマトの袋詰め作業の様子 3 ハウス内の明るく広々とした空間 4 高さ5.8mのオランダ式のガラス温室 5 トマトの葉かき作業の様子 6 昨年オープンしたレストラン・直売所

「**この事業の担い手は?**」
昨年オープンしたレストラン・直売所も合わせると約110人の従業員がいます。地元出身者がほとんどで、約7割が女性です。農業とはかけ離れた職種からの転職者も多くいます。作業はシステムや機械に任せられるので、経験のない方でも全



株式会社デ・リーフデ北上
代表取締役 鈴木 嘉悦郎さん

「**今後の展望は?**」
将来的には、近隣の空いている土地を活用し整備して観光農園にすることで、この地域全体を盛り上げていきたいです。
この園芸方法は気候や土壌に関係なくどこでもできます。この方法を広めるため、これまで延べ3千人の視察者を受け入れました。
また、全国8カ所の施設に指導者を派遣しています。今後も環境に配慮した持続可能な農業を発信し、県内外で発展させたいと考えています。

「**事業を始めた経緯は?**」
北上川に生息するヨシの販売や稲作などをしていましたが、震災によりヨシが流失し、水田も地盤沈下により元に戻らなくなっていました。
しかし、被災した農地を何とかしたい、地元の人々の働く場所をつくりたいという思いで、何かできないか考えたことがきっかけです。
ヨシのつながりでオランダの友人の元へ視察に行き、そこで大規模園芸施設を知りました。また、オランダではICTや機械を駆使し非常に効率的に農業を行っています。この方法なら一年中栽培でき、安定的な収入が見通せると考えました。国や県の補助金を活用し、平成28年に施設が完成しました。

「**この農業の特徴は?**」
ICTを活用したスマート農業
2.4mの土地に高さ5.8mのガラス温室を設置し、トマトとパプリカの生産から出荷までを一貫して行っています。
温度や湿度、二酸化炭素の量を最適にするため、コンピューターソフトを使って天窓の開閉や冷暖房の調節を自動で行います。そのため、経験や知識がなくても適切に作物を管理し、高品質なものをつくることができます。
また、国のスマート農業実証プロジェクトで導入した収穫予測ロボットの予測をもとに、販売計画を立てられることも大きなメリットです。
労務管理にシステムを導入
これまでの農業の「二人親方」のイメージからの脱却を図り、総務や営業といった組織体制をつくり、役割分担をしています。また、労務管理をシステムで行い、誰がどのくらい作業したか「見える化」しました。これは適材適所の人の配置、作業の平準化に役立っています。

「**環境に配慮した持続可能な取り組み**」
土ではなくヤシガラを用いることで、肥料をリサイクルしています。作物は肥料の養分を全て吸うわけではありません。残った肥料を回収・分析して再調合した上で再利用しています。
また、72本の雨水槽を備えており、給水は全て雨水で賄っています。それにより低コストを実現しています。
さらに、暖房などの熱源の7割は二つの再生可能エネルギーを利用してあります。地元の間伐材の木材チップを燃焼する木質バイオマスボイラーと、地中熱を利用したヒートポンプで、どちらも脱炭素の地域資源のエネルギーです。現在は、ここで発生した二酸化炭素を回収してメタンガスを生成し、エネルギー源にすることも検討しています。

「**この農業の担い手は?**」
昨年オープンしたレストラン・直売所も合わせると約110人の従業員がいます。地元出身者がほとんどで、約7割が女性です。農業とはかけ離れた職種からの転職者も多くいます。作業はシステムや機械に任せられるので、経験のない方でも全

県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)がスタートして2年目を迎えました。
本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、県内の企業・団体などを紹介します。



第2回

被災地から持続可能なスマート農業を発信

株式会社デ・リーフデ北上

「復興の柱」を掲げています。
今回は「産業・経済」の柱から、オランダ式の大規模施設園芸でICT(情報通信技術)を活用してパプリカやトマトの栽培を行う株式会社デ・リーフデ北上(石巻市)の鈴木嘉悦郎代表取締役にお話を伺いました。

「復興の柱」を掲げています。
今回は「産業・経済」の柱から、オランダ式の大規模施設園芸でICT(情報通信技術)を活用してパプリカやトマトの栽培を行う株式会社デ・リーフデ北上(石巻市)の鈴木嘉悦郎代表取締役にお話を伺いました。

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ
2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
株式会社デ・リーフデ北上

特集1
中国吉林省との友好交流が
35周年を迎えます
米国デラウェア州との姉妹交流が
25周年を迎えます

特集2
6 ICTで「学び」が変わる

県政ニュース
8 選ぶ選ばれる!!
みやぎ飲食店コロナ対策認証制度

県政ニュース
10 「みやぎ型管理運営方式」が始まりました
これからも安心・安全な水をお届けするために

県政ニュース
12 宮城県制150周年記念観光キャンペーン

県政ニュース
13 REBORN ART FESTIVAL 2021-22[後期]

県政ニュース
14 みやぎのINAKAで遊ぼう・泊まろう

15 おいしいものがたくさん!
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(七ヶ宿町・栗原市)

21 県立施設インフォメーション

22 新型コロナウイルス感染症に関する
お知らせ

23 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和4年4月末現在)

住民基本台帳人口	2,263,038人	世帯数	1,031,057世帯
男	1,103,150人	※うち、外国人住民基本台帳人口は20,732人です。	
女	1,159,888人		

今号の表紙

大規模園芸施設でのトマト栽培

1.1%のハウスで352本のトマトを栽培しており、高い天井からつるされているトマトの量は圧巻でした。写真はトマトの葉かきをしているところです。写真のトマトはまだ緑色ですが、この2、3日後には色づき始め、収穫されるそうです。青々と茂った葉と緑色のトマトが暑い夏のひとときに涼しげな空気をもたらしてくれます。



仙台・宮城観光PR
キャラクター
むすび丸